

まちの ニュース

農業の再生を国政に訴える平成の百姓一揆

平成の百姓一揆in八幡平市は3月8日、市総合運動公園体育館で開かれました。

農業関係者や市民など約1100人が参加して、農産物の価格低迷、資材高騰などにより年々厳しさを増す農業の実情を国政に訴えました。西根地区市民センター前から、会場まで約450人がデモ行進。横断幕やむしろ旗を掲げて、農家の窮状をアピールしました。



会場には約1100人が集まり、農業の再生を訴えました



むしろ旗などを掲げてデモ行進

パネルディスカッションには、5政党を代表して自民・玉沢徳一郎氏、民主・主浜了氏、公明・井上義久氏、共産・高橋千鶴子氏、社民・菅野哲雄氏が出席しました。各党の農業政策についての考え方や、今後の取り組みについて議論。会場からは、「農業を派遣切りにあつた人たちの雇用の受け皿とする考えはないか」「借金で経営はとても苦しく、息子に継がせることもできない」などの声が上がりました。

参加者から5政党の国会議員へ、後継者が育つ農業政策や食料自給率向上、再生産可能な価格保障などを求める要請書を手渡し、農業の再生を訴えました。

人権擁護委員の高橋良二さん(柏台)は3月16日、松尾地区の保育所年長組の園児47人にコスモスの種をプレゼントしました。

松野保育所(立柳陽子所長、園児76人)で高橋さんは、「コスモスに水をあげて、きれいな花を咲かせてください」とあいさつ。24人の年長児一人一人にコスモスの種を手渡しました。

高橋さんは、子どもたちの健やかな成長を願い、この活動を始めました。花を育てることで、思いやりのある子どもに育ってほしいとの願いが込められています。

平成9年からこの活動を開始。これまでに632人の卒園児に種を贈っています。

子どもたちは、「種をまいて、きれいな花を咲かせたい」と笑顔を見せました。

美しい花を咲かせ思いやりの心をはぐくむ



↑高橋さんから子どもたちへコスモスの種をプレゼント

←子どもたちに優しい心の大切さを呼び掛ける高橋さん



ファミリーで楽しめる田山スキー場まつり

田山スキー場まつりは2月28日、同スキー場で行われました。

田山スキー場のある矢神岳の山頂を目指すトレッキンググツアーには、23人の市民が参加。30分ほどで山頂に到着し、360度のパノラマを楽しみました。また、パイプスキーで斜面を下るレースも行われ、普段とは違う雪山での遊びを体験しました。

会場内には出店も出され、まつりを盛り上げていました。



かき氷などの出店が会場を盛り上げました

地域の力で盛り上げ・てらだ公民館まつり

てらだ公民館まつりは3月7、8の両日、寺田公民館で行われました。

同公民館講座の成果を披露する作品展示などのほか、茶道教室「寺子屋」受講生の児童による見事なお点前が披露され、人気を集めました。

ステージでは、市無形民俗文化財の野口鹿踊りや、寺田小学校の児童による朗読と楽器演奏、寺田喜劇団の公演が行われ、客席は拍手と笑顔に包まれました。



「明日があるさ」を演奏する寺田小4年の児童

郷土の新酒と食を楽しむ地産地消のゆうべ

「郷土の新酒と食のゆうべ」地産地消2008は3月20日、岩手山焼走り国際交流村で開かれました。

この催しは、八幡平市産業振興株式会社が地産地消を通じて市の食文化を再認識してもらおうと開催したものです。

テーブルには、わしの尾の新酒とともにニジマスや杜仲茶豚などの地元食材をふんだんに使った料理が勢ぞろい。参加者は、郷土の新酒と味覚を心行くまで楽しみました。



民謡などアトラクションを楽しみながら郷土食を堪能



真剣な表情で商品を選ぶ児童

見て触って楽しく野菜と果物の働きを学ぶ

安代小学校(高橋ひさ子校長、児童160人)の3年生21人は3月12日、「5・A・D・A Y食育体験ツアー」に参加しました。

みちのく流通システムグループが企画したもので、1日5皿以上の野菜と200g以上の果物の摂取を推進することが目的。野菜などの食べ物の働きを学んだ後、スーパーハシモトで予算内で指示どおりの野菜と果物を買って物するゲームを楽しみました。

広く充実した新施設で障害者の自立を支援

障害者福祉作業所・特定非営利活動法人そよかぜの家（伊藤昇所長、利用者24人）の新作業所開所式は3月3日、同所で行われました。

開所式には、関係者など約50人が出席。利用者が「新しい施設で、日常生活を自分らしく楽しみ、がんばります」と誓いのことばを述べました。新作業所は、旧松尾村学校給食センターを改装したもの。4月からは、障害者の生活介護事業も行われます。



テープカットで開所を祝いました

市民に愛されるチームを目指して始動する



「合言葉は一体感」をスローガンにチーム設立

サッカーの社会人クラブチーム「アンソメット岩手八幡平」は3月21日、新チーム設立の記者会見を行いました。高橋義利代表（いこいの村岩手社長）は「市民に愛されるチームとして持続的に活動し、Jリーグを目指します」と抱負を述べました。同チームは、市内に本拠地を置き、全国クラブチーム選手権などの大会に出場するほか、青少年育成のため小中高生の指導に当たります。

2009ランゲラウフチャレンジンA P P Iは3月15日、安比高原まきば特設コースで行われました。

県内外から参加した約400人が歩くスキーに挑戦。当日はアルペールビル五輪金メダリストの三ヶ田礼一さんや、ユニバーシアード・ハルビン大会金メダリストの永井健弘さん、畠山長太さんも参加し、大会を盛り上げました。参加者はそれぞれのペースで、歩くスキーを楽しみました。



安比高原の景色を楽しみながら、歩くスキーに挑戦

金メダリストと一緒に歩くスキーに挑戦を



寄木小学校剣舞クラブによる寄木念仏剣舞

平成20年度チャリティー芸能発表会（市芸術文化協会松尾支部主催）は3月1日、松尾地区体育館で開催されました。大正琴やコーラス、踊りなど、13団体が日ごろの活動の成果を36演目で見せました。寄木小学校剣舞クラブによる市無形民俗文化財の寄木念仏剣舞などが披露され、会場を訪れた人々を楽しませました。

収益金の一部は、福祉向上のため役立てられます。

地域の福祉向上のためチャリティー演芸会

38年の歴史に幕を下ろす新町幼稚園閉園式

新町幼稚園の閉園式は3月20日、同幼稚園で行われました。

式では、父母会を代表して佐藤新会長が「新町幼稚園の38年という歴史は、地域と共に歩んできた歴史。地域の皆さんのおかげです。さよう

から新町幼稚園、そしてどうもありがとうございました。あいさつしました。

また、園内には昭和46年に開設されてからの写真などが展示され、参加者は38年間の歴史を懐かしそうに振り返っていました。



↑新町幼稚園として最後の園児たちとその保護者の皆さん

→式では「ありがとう・さよならコンサート」も行われ、音楽とともに新町幼稚園との別れを惜しまれました



家族に囲まれてめでたく100歳の誕生日

佐々木ナツさん（大更）は2月25日、高橋リツさん（松尾）は3月15日、佐々木ウメさん（松尾寄木）は3月16日、めでたく100歳の誕生日を迎えました。

佐々木ナツさんは大更に嫁ぎ、農業と精米所を営み、食べ物の好き嫌いはなく、現在も週に5日は晩酌を楽しんでいます。

高橋さんは、松尾の農家に嫁ぎ、米と葉タバコの栽培に精を出す働き者でした。今は、週に1回通っているデイサービスを楽しんでいます。

佐々木ウメさんは盛岡市に生まれ、釜石鉾山で働く夫の

ところに嫁ぎ、松尾寄木に移り住みました。友人との世間話しが好きなおばあちゃんです。



①100歳を迎えた佐々木ナツさんと家族など
②高橋リツさんとお祝いに駆けつけた家族
③佐々木ウメさんと佐々木さんの100歳を祝う家族